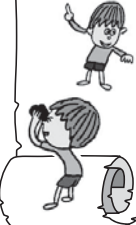




第14弾

ありたい姿 探検記



前回のおさらい

トピック
SDGs 推進町民会議

・町のありたい姿の達成
に町民の視点を入れ込
むための会議

今年度の主な議題

・ありたい姿の振り返り、
総合計画アンケート項目
・ゼロカーボン推進

先月号は、町民参加でまちの「ありたい姿」を達成するSDGs 推進町民会議をご紹介しました。今回は、今月より連載される、しかもかわゼロカーボン通信とのコラボ企画で、「なぜゼロカーボン(脱炭素)なのか?」についてご紹介します。

世界が認めた

「たったひとつ、かけがえのない地球」

環境問題について最初の世界

的な政府間の会合は、1972年にスウェーデンのストックホルムで開催された「国連人間環境会議」です。テーマは「Only One Earth(かけがえのない地球)」で、環境と貧困の関連性を初めて指摘し、人間への影響も示した重要な会議です。これを踏まえ、6月5日は、世界環境デーとして制定され、今年も初回の会議から50年の節目の「ストックホルム+50」として、同じ場所で開催の開催が記念されました。今年も「すべての人の繁栄のための健全な地球」私たちの責任、私たちの機会」がテーマとして掲げられ、SDGs 達成のために大胆な環境活動の更なる推進がうたわれました。

「ゼロカーボン」のはじまり

気候変動に対する動きは1990年代から本格的になりました。2015年に採択されたパリ協定にて、「産業革命以前と

比較して平均気温の上昇を2℃以内を目標とし、1.5℃に抑える努力を続ける」と示されたことから、2℃目標や、2050年ネットゼロ(ゼロカーボン)が世界共通の目標として認知されたことがはじまりと言えるでしょう。

なぜ今「ゼロカーボン」?

しかし、7年も前の言葉が、なぜ今さら騒がれるようになったのでしょうか?

昨年、地球温暖化の科学的根拠をまとめた報告書でようやく「人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことは疑う余地がない。」と断言されました。地球温暖化を認めざるを得なくなり、一刻も早い対策が求められるようになりました。人類は今も自分で自分の首を絞めています。7年経ってようやく取り組み始めた気候変動対策。自分たち、未来世代が地球で暮らすために即行動に移すという世界の意思表示が、ゼロカーボンなのです。

今月は、SDGs 推進町民会議の議題となるゼロカーボンに



国連人間環境会議の『ここ』がすごい!

1972年ユネスコ総会にて「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(通称:世界遺産条約)が採択され、文化だけでなく、自然も人類共通の遺産として保護・保全していく協力体制が築かれました。ストックホルムの会議がなければ、北海道が誇る知床は世界遺産にならなかったかも!?



1972年 国連人間環境会議の様子

ついて紹介しました。来月は、第2回SDGs 推進町民会議の内容をお届けします。

充実版は公式noteへ

